

## アトリエを活用した木工ワークショップによる「体験」の機会の提供

### 取組の背景・目的

近年、「子どもの貧困」が社会問題化されてきていて、日本の17歳以下の子どもの相対的貧困率は11.5%（2021年、厚生労働省調べ）に及び、子どもの間で体験にも影響を与えているとの指摘がなされている。この「体験」の有無は、子どもたちの社会情動的スキルを伸ばす機会に影響があるとも言われている。

社会情動的スキルは、中長期的な成長に関わる様々な影響が予想されるとされ、①一貫した思考・感情・行動のパターンに発現、②学校教育またはインフォーマルな学習によって発達させることができ、③個人の一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響を与えるような個人の能力で、「目標を達成する力」「他者と協働する力」「情動を制御する力」が含まれるとの指摘もある。矢川児童館を含む矢川プラスには、現在、多くの子どもが来館しており、児童館として、子どもたちの社会情動的スキルを培う様々な体験の機会を提供することが必要であると考える。

以上のことから、子どもたちが、本棚の設計から完成までの木工の一連の作業に取り組む「体験」ができるワークショップを開催し、一貫性のある思考力や目標を達成する力等を育む機会、さらには、他の参加者や地域住民のボランティア、講師等の他者とともにワークを行うことを通じて、他者と協働する力や情動をコントロールする力といった社会と繋がる力を高める機会とすることとした。

### 取組の概要

- ・実施場所：矢川児童館アトリエ
- ・実施頻度：月2・3回程度、16時30分～18時（全7回を想定しているが、進み具合によって回数に変更あり。）
- ・職員体制：正職1名（正職1名以外に、内容等によって、正職または会計年度任用職員にサポートを依頼することがある）。事業の実施に当たっては、木工に係る専門的な知識が必要であるが、工務店に勤務している講師と、元大工といった地域住民のボランティアの協力によって成り立っている。
- ・事業の実施方法：直営（社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団との共催事業として実施）

## 工夫点・留意点

- ・子ども主体で事業を進めるため、作品を検討するための話し合いの場の設定や、子どもの制作のペースを大事にしている。（当初予定していた期間・回数では収まらないので、ゆとりをもって事業を行うようにしている。）
- ・工作に当たっては、多世代交流の観点も踏まえて、木工に詳しい元大工といった地域の高齢の住民に声かけをして、ボランティアとして子どもたちに関わってもらっている。地域住民のボランティアには、モノづくりの楽しさや知識・技術の伝承に繋がるというやりがい、さらには地域の子どもの関わる楽しさといったものを感じてもらえるよう、子どもたちとの接点を多く持てるようにしている。
- ・工作が初めての子どもにも入りやすいよう、道具の使い方等を講師や地域住民のボランティアから、適宜、丁寧に教えるようにしている。

## 取組の効果

本事業は、昨年度・今年度と実施しているものである。

昨年度の取組の効果としては、作成した作品（机・エア－ホッケー台等）を作り上げ、矢川児童館を含む複合施設「矢川プラス」内に設置され、様々な人の利用に供されている状況を見て、自己肯定感・自己効力感・自己有用感が高まった様子を確認している。

今年度は、現在進行中である。昨年度から引き続き参加している児童を中心に、他者とともに作品を作り上げることを楽しんでいる様子が感じられ、「大工」という職業観にも繋がっているように見える。事業が終了する時点では、他者と協働する力等も培えられるのではないかと考えている。

児童館事業は1回で終了するイベント的なものが多い中、本事業は長期に渡って子どもと地域の大人が関わりながら作品を作り上げていくため、子どもたちの様々な変容が見られる点に意義を感じている。

## 課題・今後の展開

現在は職員が毎回内容や日程を調整しているが、子どもたちが自主的に作業を進められる環境を整える等、子どもたちの主体性をより育めるにしていきたい。

